

説明・同意書

私は、患者(または)代理人 @PATIENTNAME 様 に対して、下記手術・検査・麻酔の必要性、危険性及び合併症等について、次のように説明いたしました。

手術・検査等の名称 根治的腎摘除術

説明の内容

1. あなたの病気や病状について:

あなたの病気は、腎臓にできた腫瘍で、悪性の腫瘍が疑われます。この病気には、抗癌剤や放射線治療はあまり有効ではなく、手術によって腫瘍を摘出するのが最も有効な治療法です。

2. 手術・検査の目的、必要性や有効性:

腎臓の腫瘍に対する手術には、腎臓全体を摘出する根治的腎摘除術と、腫瘍の部分のみを摘出して正常部分を温存する方法があります。あなたの場合、腫瘍の大きさ、位置、反対の腎機能が正常なこと、合併症の可能性などから、腫瘍のある腎臓を全部摘出するのが最も適切と考えられます。

3. 手術・検査の内容と注意点:

【右腎・左腎】

正常な腎臓は1つあれば生活には差し支えありません。高血圧、糖尿病などで弱った腎臓の場合は、腎臓の働きを守るため術後の生活により注意が必要です。

【方法の概略】

腎臓は後腹膜という奥深い場所にあります。手術方法は2種類（経腹的・経後腹膜的）ありますが、いずれも利点、欠点があります。患者さまと摘出する腎臓と血管の状態によって適していると思われる方法で施行します。

- ・ 全身麻酔下に実施します。
- ・ 経腹的の場合：仰臥位（天井に顔をむける体位）にて、お腹を縦か横に切開して腎臓を摘出します。
- ・ 経後腹膜的：側臥位（横になる体位）をとり、脇腹に切開を入れ腎臓を摘出します。
- ・ 手術は出血のない状態で終わりますが、術中に溜まったものの排除や術後の観察のためドレインという管を留置します。術直後は歩行できませんので尿道カテーテルも留置いたします。
- ・ 手術時間は約5～6時間くらいです。出血は少量ですが、腎臓は血液が多く流れる所なので、まれに大出血がおこることがあります。

【一般的な術後経過】

- ・ 翌日にはベッドに座ってもらい、その後歩行を試みます。歩行できるようになったら尿道カテーテルを抜去します。
- ・ 術後3日目くらいまでは感染がなくても38度程度の発熱がみられることがあります。
- ・ 腸管の動きがよくなれば経口摂取を開始します。早ければ術翌日の朝から水分を、その後の経過をみて食事が始まります。

- ・ドレーンは術後の経過をみて数日で抜去します。
- ・術後7日目くらいに抜糸を行います。
- ・通常術後10日程度で退院可能となります。
- ・術後は、腎臓が1つでも生活にはまず支障ありません。今までどおりの生活が可能です。

4. 手術・検査の危険性とその対応 :

【合併症、実施後の身体障害の程度】

・出血：すべての手術に共通する合併症ですが、通常は輸血が必要なほどに出血はしません(平均500ml程度)。しかし、稀に予想以上に出血する場合があります、その場合は輸血が必要になります。術前に自分の血液を貯める自己血貯血や術直前に貯める希釈式自己血輸血も行っておりますが、不足の場合は他人からの血液を輸血する場合があります。

他人の血液を輸血した場合、輸血の合併症があります。詳しくは別紙で説明しますが、大きな問題は感染性疾患(肝炎, エイズ)です。感染がないことは検査で確認しておりますが、ごく稀に感染後早期のため検査で検出できないことがあります。こうした原因による感染事故が極めてまれに報告されています。

・腹腔内臓器の合併切除・損傷：炎症や癌が進行して癒着が強い場合、根治のため周囲臓器の合併切除が必要になることがあります。最も危険なのは腸管や膵臓、血管です。

・また、術後に他の部位の病変が診断されることもあり、場合によっては追加手術が必要な場合や、治療が長引くことがあります。

・腸閉塞：おなかを切ると、治るときに腸が曲がってくっついて(つまり癒着して)、腸の内容物の流れが悪くなる場合があります。これを腸閉塞といいます。術後、痛いからといって寝ている時間が長くと起りやすくなります。起きた場合は絶食で経過をみますが、治りにくい場合は腸に管を入れたり、再手術を行うことがあります。

・感染症：術後、細菌によるなんらかの感染が起きることがあります。術創の感染、肺炎などが起こりえます。多剤耐性菌(とくにMRSA)は感染すると術創の治癒が遷延します。感染部位によっては重篤になることもあります。感染のある患者さんを隔離するなど感染防止のための数々の措置をとっています。

・神経損傷:腎臓に対する手術を腹腔鏡で行えば傷は小さくて済みますが、傷口を縫い合わせる際に肋下神経と呼ばれる部分を傷つけてしまう可能性があります。その場合、傷の痛みが長期間続いたり、お腹の皮膚の一部の感覚が失われたり、お腹の筋肉が緩んだりすることがあります。これらに対して、再手術や神経ブロックなどの追加処置が必要となる場合があります。

(I D : @PATIENTID)

(@PATIENTNAMEKANA)

・直接手術に関連しない合併症：まれに脳梗塞、肺梗塞、狭心症、心筋梗塞、胃潰瘍による出血などが発症することがあります。偶然、入院中、もしくは手術中に発症するものです。手術を直接の原因とするものではありませんが、緊張、血圧の変化、安静などストレスが誘因となっている可能性があります。診断次第、迅速に対処いたします。

・その他、基礎疾患がある場合は、手術により悪化のおそれや、それに伴う危険性があります。

5. 手術・検査を受けない場合、または代替可能な手術・検査：

免疫治療：インターフェロン、サイトカイン療法

分子標的薬治療

6. 患者さまの具体的な希望：

7. 手術・検査の同意を撤回(てっかい)する場合： 同意された後であっても手術・検査が始まるまでは、いつでもやめることができます。やめる場合には、そのことを主治医もしくは担当医にご連絡下さい。

(I D : @PATIENTID)

(@PATIENTNAMEKANJI)

8. 診療情報・材料の教育研究目的での使用に関するお願い:

関西医科大学腎泌尿器外科では、よりよい診断法や治療法の開発のための臨床研究を常に行っています。また、大学病院として学生や研修中の医師の教育(学生講義、教科書執筆、学会での教育セミナーなど)にも力を注いでいます。さらに、近年は専門医・認定医としての資格制度も多数制定され、多くの医師が取得を目指しています。これらの研究、教育、資格応募に際して、患者さんの診療情報(血液データ、画像データ、手術画像など)と診療材料(余剰血清、摘出組織の一部など)を使用しなければならないことがあります。また、治療の成績を明らかにするために、患者様の治癒状態についての調査(治療後に患者様個人宛に調査用紙を送付することや、お電話で健康状態についてお尋ねをすること)も重要な作業です。患者さんの個人情報には厳密に保護され、氏名、住所などが診療目的以外に使用されたり外部に漏れたりすることは決してありません。御理解の上、御協力いただければ幸いです。

協力いただけるかどうかはあなたの自由で、協力しなくても診療上の不利益を受けることは決してありません。いったん協力に同意されても、いつでも撤回でき、撤回しても不利益を受けることは決してありません。.....

9. 連絡先: 関西医科大学附属枚方病院@USERFORMALSECTIONNAME 枚方市新町 2丁目3番1号、
電話 072-804-0101...

@SYSDATE

@USERFORMALSECTIONNAME 医師 @USERNAME 印

関西医科大学附属枚方病院 病院長 殿

私は、上記について説明を受け、その内容を十分に理解しましたので、その実施に同意しました。
なお、この説明・同意書の写し(もしくは、説明文書とこの同意書の写し)を受け取りました。

@NENGOU 年 月 日

患者氏名 _____

住 所 @PATIENTADDRESS _____

親族又は代理者 (親権者、父母、配偶者、兄弟姉妹、保護義務者、法定代理人、
その他 _____)

氏名 _____